

組織目標評価報告書(2019年度)

部局名: 全学教育・学生支援機構

部局長名: 佐野 寛

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
④管理運営領域	管理運営領域の目標の達成状況
a) 新たな全学教育・学生支援機構の組織に対応できるように教員を再配置し、運営の安定化を図る。 b) 入学者選抜方法の改善等、入試戦略の企画・立案を行う組織を設置する。	a) 平成30年度に組織した新たな全学教育・学生支援機構の組織に対応できるように教員を再配置した。また、全学を高等教育的観点に基づき総合的に支援することを目的とし、全学教育・学生支援機構高等教育開発推進センターに Center for Teaching Excellence(CTE)部門を新規設置した。 b) 入試戦略の企画・立案を行う組織として、機構長を委員長とする入試改革戦略会議を立ち上げ、過去の選抜単位ごとの実施状況をもとに、志願者数の推移、募集人員の充足状況、個々の入学者選抜単位が求める人材等に関して議論を重ねた結果、後期日程を含む募集人員の充足状況の思わしくない選抜単位の見直しについて各学部の検討を依頼した。その結果、AO入試(物理チャレンジ)の募集停止を決定するとともに、各学部に継続して入学者選抜方法の見直しを意識させるきっかけとなった。
⑤センター・機構等業務	管理運営領域の目標の達成状況
a) 60分・4学期制の見直し等「学びの構造化」の検証を行う。 b) 学生の英語力をより一層向上させることを目的として、ICT等を用いた自学自習環境の充実を図る。 c) 学習成果の可視化と教育の質保証を図る。 d) Society5.0の実現とSDGs達成の推進に向けた教育体制の整備を行う。 e) 実践型社会連携教育プログラムや倫理教育プログラムの全学展開を図る。 f) 大学院教育における教育方法や教授内容の国際化を推進し、英語による授業科目の整備充実を図る。 g) 正課及び正課外におけるキャリア教育の推進に加えて、その成果と課題を踏まえてより一層の改善を図る。 h) 留学生の個別相談と他部局との協力体制を強化し、充実した学生生活を送るためのサポート体制を整備する。 i) 2020年度より導入される「高等教育の負担軽減の具体的な方策」に対応すべく、関係規則等・システム改修を含め準備を進めるとともに、本学の授業料免除の運用方法を申請者負担の軽減の観点から見直す。 j) 平成30(2018)年度に2年前予告として公表した特別入試に関する外部検定試験の利用・英語4技能評価に関し、着実に実施するとともに、問題点・課題等の検証を行う。 k) 入試広報体制の見直しを行う。 l) 前年度に公表した平成33(2021)年度入試に関する概要について、必要な微調整とより詳細な選抜方法を決定し、平成32(2020)年度の実施に向けて準備する。	(5-2) (1-1)(1-2) (8-2)(15-1) (2-3) (5-2) (10-1) (21-1) (18-2) (19-1) (24-3) (24-1) a) 60分授業・4学期制を見直し、各学部執行部との意見交換を行い改善案を提示した。さらに、改善案に対する各学部からの意見をもとに、全学の方針を決定した。 b) ICT等を用いた自学自習環境の充実を図るため、岡山大版英語CAN-DO Listを作成した。さらに、英語の語彙力向上を目的として、全1年次生が受講可能としたスケジューリング法(マイクロステップ・スタディ)によるe-Learningシステムの運用を本年度第2学期より開始した。 c) セキュリティサポートの停止のため、現行のQ-cumシステムに代わって学習成果の可視化が可能で、かつ、来年度更新予定の次期学務情報システムとの連携が容易で、保守管理も万全である別の仕組みを検討中である。また、内部質保証のための教学IRとして収集すべき項目を選定、来年度から毎年度岡山大版学務IRデータ集(仮称)を作成することとし、作成を開始した。 d) Society5.0の実現と、SDGs達成の推進に向けた、社会に求められる理工系人材の養成に資する工学系教育改革を行った。 e) 実践型社会連携教育プログラムに関して、大部分の学部学科で必修科目として開講されていることを確認した。また、全学生が倫理教育要素を含む授業科目を履修できる体制が整っており、倫理教育プログラムが全学展開されていることを確認した。 f) 大学院教育における英語による授業科目数は、940科目となり、第2期中期計画期間末の234科目から着実に増加した。これに伴い、英語のみで修了できるコース数も31コースまで増加した。 g) 正課キャリア教育における教育効果の測定及び正課外キャリア教育のプログラム改善に取り組んだ。さらに、正課外活動の運営組織である校友会総務委員会について、新たに二役会制度や新規部会を導入したうえで、校友会全体の評価基準制度の見直しを図り、組織内活性化に取り組んだ。 h) 留学生への支援に関して、留学生相談室では、留学生の生活・学業面での個別相談に応じる他、指導教員、留学生関連職員からの問い合わせに対応した。また、留学生が新たな学生生活に適応しやすいようフォローアップ・オリエンテーションや気軽に参加できるイベントを新たに開催した他、Facebookを活用した情報発信を開始した。さらに、センター内他の相談室や国際部、情報統括センターと適宜情報共有を図り、具体的な課題解決に取り組むと共に、鹿田キャンパスでの留学生相談を開始し、留学生支援の体制づくりに取り組んだ。 i) 「岡山大版授業料免除及び徴収猶予取扱規程」、「岡山大版入学料免除及び徴収猶予取扱規程」の改正並びに「岡山大版における日本学生支援機構給付奨学生学業等認定基準」の制定について審議・承認を得た。また、「授業料免除Web申請システム」及び奨学生等の適格認定を行うための「経済支援サブシステム」の導入に向け、契約を結び納品に向け調整するとともに、業務の運用準備を進めた。さらに、授業料免除申請に関し、一定条件に該当する場合は前・後半期2回申請から一括申請(年1回・前半期のみ)に改正し、申請者(約1,800人)のうち約43%(約770人)の者の申請に係る負担軽減を図った。 j) 英語資格・検定試験の特別選抜での活用方法について、9月に学部・学科別に公表したが、11月1日に発表された文部科学省からの大学入試英語成績提供システムの導入見送りに伴い即座に各学部と調整し、全ての選抜における英語資格・検定試験の活用方法について、問題点や課題を整理し、11月29日付けで公表した。 k) 高大接続・学生支援センターへの組織改編に伴い、学部兼任の教員による副センター長2名を配置し、入試広報を含むアドミッション部門の体制強化を図った。さらにアドミッション部門教員が高校を訪問する日程を全学で共有することによって、アドミッション部門と学部が共同して入試広報活動を実施する体制を整備した。 l) 2021年度岡山大版入学者選抜(2020年度実施)の基本方針に基づき、特別入試を含めた全ての選抜区分についてその詳細な内容を9月に公表した。また、文部科学省から大学入試英語成績提供システムの導入見送りの発表に伴い、全ての選抜における英語資格・検定試験の活用方法を修正し、大学入学共通テストにおける英語リスニングとリーディングの配点とともに11月29日に公表した。さらに、国語記述式問題の活用方法についても修正のうえ、12月17日に公表した。